

国立大学附属学校におけるいじめ防止等の対策のための協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝出口利定・東京学芸大学長）は、12月24日（土）、全国国立大学附属学校連盟との共催により、国立大学附属学校におけるいじめ防止等の対策のための協議会を一橋講堂（東京都千代田区）において開催し、附属学校園を置く国立教員養成大学・学部の附属学校担当理事・副学長・学部長、附属学校園の校園長・副校園長・主幹・生徒指導主任等をはじめとする関係者約350名が出席した。

冒頭、首藤敏元副会長（全国国立大学附属学校連盟理事長・埼玉大学教授・埼玉大学教育学部附属中学校長）の挨拶では、今回の協議会は東京学芸大学附属高等学校のいじめ事案が発端であり、その重大性から年内の開催となった旨の説明があった後、全ての子供たちが安全で安心した学校生活を送ることができる環境を用意することは教師の責任である。国立大学附属学校園は学習指導のモデルを示すだけでなく、学校運営、生徒指導、実習生指導、教員育成、保護者との連携などの面でも信頼される存在である必要がある。いじめ等の対策は附属学校園だけの問題ではなく、大学と一体となった附属の運営の問題であり、附属の子供たちの問題に対し、大学の教員が附属学校園の教員と共に汗を流すことが求められていること等について指摘し、今回の協議会を通して、教訓を共有し、自らの大学、附属学校園での対策や対応などについて知見を深め、いじめ防止対策推進法で掲げられている関係者の責務について再認識する場としたいと述べた。

その後、文部科学省の説明として、角田喜彦高等教育局大学振興課長から、附属学校の課題、大学及び附属学校の役割や対応体制等について、坪田知広初等中等教育局児童生徒課長からいじめ防止対策推進法に基づく組織的な対応について、それぞれ説明があり、その後活発な質疑応答を行った。

休憩を挟み、阪根健二鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授から、「附属学校園におけるいじめ問題への対応について－求められる人権感覚と適切な対応－」と題して講演があり、最後に、丸山研一附属学校委員会副委員長（全国国立大学附属学校連盟副理事長・千葉大学教授・千葉大学教育学部附属中学校長）の挨拶で閉会となった。



首藤副会長・全附連理事長



角田大学振興課長



坪田児童生徒課長



阪根鳴門教育大学大学院教授



丸山附属学校委員会副委員長・
全附連副理事長



会場の様子